

リーダーズセミナー報告

この度、中四国学生剣道連盟では設立四〇周年を迎えるにあたり、中四国学生剣道連盟の活性化を図る意味で第一回目のリーダーズセミナーを企画・開催しました。その概要を報告します。



一、セミナー開催の趣旨

①指導者がいない大学への啓蒙

監督・コーチのいない大学は学生主体で部を運営しているが、学生だけでは限界があり、練習方法等についてアドバイスが欲しいとの要望があったこと。

②各大学間の交流

試合の場だけではなく、もっと多くの大学間のような交流の場を持ちたいとの希望が多かったこと。

③中四国のレベルアップ

先生方や他大学の話を聞くことにより剣道に対する意識を変え、大学のみならず中四国地区全体のレベルアップを図ること。

④幹事会の活性化

現在の幹事会は各大学からの意見や要望もなく、大会の抽選をして帰るだけの形式的なものになっている。加盟大学の学生にもっと本来の幹事会の意義と役割を理解してもらい、今後の運営に一層の協力を要請すること。

二、開催期日

平成六年三月一二日(土)～一三日(日)

三、場所

岡山県玉野青少年スポーツセンター

四、日程

〔第一日目(三月一二日)〕

・オリエンテーション(司会：白壁常任幹事)

幹事長挨拶(矢内幹事長)

木原先生挨拶(鳴門教育大学)

講演

講師紹介 境先生(高根大学)

山中介介先生(鳥取県立鳥取西高等学校教諭)

中塚美枝先生(岡山県立誕生寺養護学校教諭)

合同稽古

・夕食・入浴

・懇親会

〔第二日目(三月一三日)〕

・起床・掃除

・朝食

・合同稽古

・講演補足・話題提供

山神先生(香川大学)より「カーボン竹刀」

「打撃力」についてのバイオメカニクスの見

地からの話題提供。

・参加者全員から感想及び一言

・解散

私の剣道修行ポイント

「山中洋介先生」



やまなか・ようすけ
教士7段
昭和35年生まれ（広島県福山市出身）
PL学園高等学校・筑波大学卒業
インターハイ個人・団体優勝
全日本学生個人・団体優勝
全日本選手権大会第3位
全国教職員大会個人優勝

マイナスの要因をプラスの要因に

昭和五八年に筑波大学を卒業し、鳥取国体の先鋒要員として鳥取西高等学校に勤務して以来、一一年になりません。その間、昭和六〇年の鳥取国体までは、強化練習も数多く行なわれ、国体での優勝を目標に稽古に励んでいました。しかし、国体が終了し、一段落すると、これからどこに目標を置いて稽古に取り組んでいけばいいのか悩んだことを覚えています。また、都会ほど稽古を行なう環境に恵まれていない地方において、自分の技量を落とさずに維持・向上させるにはどうしたらよいかという悩みもありました。

そういう状況の中で、平成五年の全日本選手権大会において三位に入賞できたり、教職員大会で個人優勝できた要因を考えてみますと、自分自身の中でマイナス要因をプラス要因に変えていったからではないかと思えます。自分自身が満足する稽古ができないという不安な心理状態にある中で常に心掛けた

ことは、絶対に受け手に回らないという事でした。また、自分の攻めを向上させるためにも常に前向きに取り組むこと、そして、「打って勝つのではなく、勝って打つのだ」ということを念頭に置いて稽古に取り組みました。

イメージトレーニング

全日本選手権や国体といった全国大会に出場する際には、自分が理想とする剣道家の試合は絶対に見落とさないようにしました。そして、その人の剣道をイメージしながらイメージの中で実際にその人と対戦するわけです。もちろん自分の良い部分も悪い部分もイメージしますので、打たれる場合もあるわけです。

このようにイメージしたことを、鳥取に戻ってからの稽古において再現してみるわけです。また実際に稽古できなくてもイメージトレーニングだけは欠かさず行なってきました。

今後は加齢と共に体力も低下してきますので、稽古方法を工夫しなければならぬと考えています。

剣道のわがこ

剣道を始め二五年になりますが、高校・大学において、自主的に、工夫をしながら稽古することを学んだように思います。今振り返ってみますと、私の剣道の一つのスタイルが確立されたのはこの時期だと思えます。

これまで剣道を志してきて思うことは、結局剣道は剣道の理念にあるように「人間形成の道である」ということです。現在はどちらかと言えば表面的な競技性の部分に目がいついていますが、剣道は他の競技と違い生涯にわたって続けていけるものでし、最終的には自己実現のための剣道でありたいと思っ

ています。

今回お集まりの皆さん方は、それぞれ様々な価値観で剣道を行なっておられることと思います。どれも正しいということはないと思いますが、どういう目的意識であっても、自分が生きていくために剣道がプラスにならなければ駄目だと思います。今後剣道が続いていく人はなお剣道を磨きながら人間を造っていき、また仮に剣道をやめても、これまでに培ってきた剣道の精神力を社会で生かしていけば、きっと立派な人間になることができると思います。私も今後さらに剣道に励み、立派な人間になるようがんばりたいと思います。

剣道と学業の両立を目指して

「中塚美枝先生」



なかつか・みえ
4段
昭和43年生まれ
作陽高等学校・島根大学卒業
インターハイ団体第3位
全日本女子学生個人第3位
中四国女子学生個人優勝
中四国女子学生団体優勝

悩める中

大学卒業後、二年間講師をし、現在、精神薄弱児を対象とした養護学校に勤務しています。小学校・中学校・高校時代と幸いにも全国大会である程度の成績を収めることができ、一般的には剣道のエリートコースを歩んで、前向きに剣道に取り組んできたと思われがちですが、実際は節目節目において悩み

がありました。

私は剣道を行なう上で、ただ剣道だけをやるのではなく剣道の良い所を生活に生かしていきたいと思っていましたし、また学業と剣道との両立を常に考えて取り組んできました。しかし、常に前向きに剣道だけに情熱を注いできたわけではありません。

高校時代、休日に練習や遠征があり、他の人を羨ましく思ったこともありましたが、練習で疲れて勉強に身が入らないこともありましたが、学業と剣道を両立するために作陽高校を選んだにもかかわらず、剣道しかできないのであれば何のためにきたのかと真剣に悩んでいました。

部活動の中で、剣道だけでなく勉強もしたい、そういう色々な価値観がなかなか認めてもらえないと



いうことが不満で、真剣に恩師に相談したことがあります。そのときは恩師の一言で踏み止まることででき、実績としてもある程度のものが形として残りましたが、本当に自主的に取り組んだのではなく、消化しただけで決して良い状態で過ごしたわけではなかったと思います。しかし、このように一番悩んだ高校時代が、今振り返ってみると人間的に一番成長した時期であったような気がします。今では高校時代の恩師に感謝しています。

剣道の素晴らしさ

大学は小さい頃からの夢である教師になるために、あえて地方国立大学を選びました。今までは違う環境で、エリートだけではない、様々な価値観を持った人達と剣道をするのができて本当に良かったと思います。大学というのは学生主体で自分たちの意見が反映されやすく、やればやるほどいい方向に進むことができると思いますし、逆に怠けていればぼんやりと過ごすこともできます。どうするかは本人の気持ち次第だと思いますし、やり方一つでどうにでも変わるものだと思います。私にとつて、大学時代が一番貴重な時期でしたし、大学時代の剣道があったからこそ、高校時代のマイナスのイメージをプラスに変えることができたと思います。

現在は学校で子供達五人を集めて剣道クラブをつくっています。竹刀を振るのもやっとなの子供達ですが、本当に楽しくやっております、逆に剣道の素晴らしさを教えられた気がしています。勝敗だけで見えなかつたものを教えてもらったと思っています。

剣道では勝敗だけにこだわるなとよく言われますが、それがすべて悪いというのではなく、こだわるからこそ得られるものがたくさんあると思います。今社会に出て、勝負の世界に生きてきたことが自信

となつていことが大いにあります。どんな困難にもここで負けてはいけないというのは剣道も人生も同じだと思います。皆さんもこれから色々な形で剣道が続いていかれることと思いますが、どうか剣道の良さを何か一つでも見付けて、それを生かしてほしいと思います。

最後になりましたが、リーダーだからといって一人で悩むのではなく、部員全員で剣道部を作り上げていくようがんばってください。

六、参加者の感想

- ・大会だけでは図れない交流ができ、他大学も同じような悩みを抱えていることが分かった。
- ・普段は大学の中だけの稽古しかできないが、今回先生方をはじめ色々な人と稽古をお願いすることができた良い刺激になった。
- ・頂点を極めた人の話や、剣道を様々な角度から見たお話をうかがうことができ参考になった。

・先生方や他大学の人の話を聞き、自分の剣道を振り返ることができた。この経験を生かし、これからいい意味でこだわりを持って剣道を行なっていきたい。

・ぜひ来年以降も実施してもらいたい。

七、まとめ

初日の夜には講師の先生を囲み懇親会を開催しました。お酒が入っていたせいもありますが、先生方も非常に打ち解けた雰囲気です。酒量が増えてしまいました。(翌日の稽古には前夜の余韻をもって参加したのも若干いたような気がしますが)その中で山中先生による宮崎選手(全日本選手権二連覇)についての話や、中近東への派遣指導

の話はユーモアも交えたもので、学生はお酒を飲むのも忘れて聞き入っていました。また中塚先生にはご自身も中四国連盟出身ということもあり、自分の経験を元に非常に説得力のあるお話をうかがうことができました。

第二日目の稽古には、島根大学OBで岡山県在住の四名の先輩が稽古に参加され、前日以上に充実した稽古になりました。

今回が初めての実施ということで、二七校の参加でした。すべての加盟大学からの参加が得られなかったことは残念でした。これは実施時期が三月中旬ということもあり春期合宿と重なったり、連絡が不徹底の部分があったこと、また場所の確保が難航し、連絡が遅れたこと等が原因になっていると思います。しかし、色々な問題点があったにしろ、とりあえず第一回目を実施することができたということは意義深いことだと思えます。参加者の感想にもありましたように、是非継続していきたいものです。

*参加者名簿

・講師：山中洋介、中塚美枝

・連盟教官：木原資裕(鳴門教育大学)、山神眞一(香川大学) 境英俊(島根大学)

・連盟幹事：矢内克裕(幹事長)、久米田泰利(副幹事長)、高馬ゆかり(女子部長)、白壁伸太(常任幹事)、山根秀明(常任幹事)

・加盟大学代表：藤村安彦(愛媛大学)、金本淳一(岡山大学)、貞本康仁(岡山理科大学)、安永昌司(香川大学)、上西功二(近大工学部)、向井康之(高知大学)、公文修(四国学院大学)、園田慎吾(島根大学)、稲若明美(島根大学)、赤松美保(聖カタリナ女子大学)、藤田将光(徳島大学)、東浦利行(徳島文理大学)、岩永幸義(鳥取大学)、岸利栄(比治山女子短期大学)、浜村健一(広島経済大学)、千草源太(広島工業大学)、江谷満里(広島女子大学)、星野寿人(広島修道大学)、森寄誠一郎(広島大学)、河本剛(広島電機大学)、峠周治(福山大学)、飴野秀樹(松山大学)、冨田真司(山口大学)、安達香里(就実女子大学)、熊澤圭祐(吉備国際大学)、青崎良二(東亜大学)、宇尾知佐子(鳴門教育大学)